

# 書評

## イラストでわかる義肢療法

上杉雅之(監修)  
長倉裕二, 岩瀬弘明(編集)

B5判・272頁  
定価4,950円(本体4,500円+税10%)  
医歯薬出版刊, 2021年



## イラストでわかる装具療法

上杉雅之(監修)  
長倉裕二, 岩瀬弘明(編集)

B5判・244頁  
定価4,950円(本体4,500円+税10%)  
医歯薬出版刊, 2021年



[評者] 吉尾雅春 千里リハビリテーション病院

「義肢装具療法」として企画されたそうですが、ボリュームが多くなり「義肢療法」と「装具療法」とに分冊されたそうです。確かに、この2冊が1冊になると重々しいですし、初学者たちが文字離れしているこの時代にはそぐわないでしょう。義肢も装具も義肢装具士がかかわり作製されるので1冊にまとめられた書籍であってもおかしくはないのですが、義肢と装具とでは必要とする対象者はまったく違いますし、理学療法士のかかわり方は自ずと異なります。理学療法士の卒前教育に用いられてきたこの類の書籍は義肢と装具とが1つにまとめられており、本書はこれまでの概念を打ち破ったものとして評価できます。

実習生や新卒者は、装具のことをよく知らない傾向がありますし、装具の適応や装具を用いた運動療法の具体的な方法がほとんど教育されていないと感じます。大

切なのはツールとしての装具をどのような対象者にどう使うかであり、それは理学療法士に委ねられているのです。『イラストでわかる装具療法』ではその説明が加わりました。画期的なことです。臨床ではもっと詳しく、もう少しかゆいところを手を伸ばして、という思いはありますが、教科書レベルとしてはこれでよいと思います。教員の立場にしても正直助かるのではないのでしょうか。文章もコンパクトですし、多くのイラストが学生の目を引きそうです。

あえて注文をつけると、装具を必要とする対象を広げすぎて、それぞれの領域での説明に制限ができたこと、写真では細かい陰影がわかりにくいということでイラスト化されたのに図が小さくなってしまったことなどが挙げられます。逆に言えば、それだけ情報が満載でポイントを絞った優れた教科書であると言えるでしょう。

耳慣れない「義肢療法」という用語についてはいろいろな意見があるでしょう。要はその中身です。本書ではスポーツ領域もしっかり取り上げ、現在の支給体系についても触れ、充実した内容であると思います。義肢にかかわる理学療法の進め方はこれまでも多くの教科書、書籍に紹介されていますが、本書ではそれらを圧倒するほど相当なページが割かれています。

両書は、各章の冒頭に「エッセンス」がまとめられています。それらを踏まえながら読み解いていくことで学習が進みそうです。また随所にある「トピックス」や「先輩からのアドバイス」もとてもわかりやすく有効な内容になっており、執筆者や編集者の学生に対する愛情を感じます。

両書は、これまでの教育界に一石を投じた主張のある存在になっています。